

花と灯りが織りなす「なごみ」の世界 高知城花回廊

右城 猛

毎年、桜の見頃となる4月の第1週に、夜の高知城を花と明かりで彩る「高知城花回廊」のイベントが開催される。

4年目となる今年は、4月2日～4日に開催されている。3日の土曜日に家内と一緒に見てきた。



ぼんぼりに灯された高知城の追手門



追手門の前の生花



追手門を入ると多くの観客がステージ(華の舞台)の演奏に聴き入っていた。



ステージでは、胡弓の演奏家・木場大輔さんとピアニストの足立知兼さんによる「胡弓とピアノのユニット kodachi～木立～」が、「荒城の月」、「アメイジンググレイス」などを次々と演奏し、観客の心を引き付けていた。



場内に飾られた生け花



県展無鑑査の和泉蒼牛(そうぎゅう)さん(高知市)書による作品。縦1.8m横1.8mの紙に、酒をこよなく愛した土佐藩15代藩主・山内容堂(豊信)の雅号「鯨・海・酔・候」が書かれている。鯨海は土佐湾，酔候は酔いどれ殿様の意味。



ライトアップされた天守閣と夜桜



県華道協和会による三の丸の生け花



土佐和紙に山内家の家紋が描かれた灯籠が幻想的な雰囲気を醸し出している。



様々な華道流による生花の大作が展示



ライトアップされた天守閣と生け花



和傘



和傘を使った明かりの演出



8色の布と夜桜のライトアップ



華の舞台では繁藤雅陽会と南国雅怪龍会による雅楽が演奏されていた



ぼんぼりか灯る追手門の中の広場に飾られた生け花

高知城花回廊を見に行く前に、ひろめ市場で腹ごしらえをすることにした。ひろめ市場は、私が高知で最も気に入っている場所である。

ここには 65 店舗が入っている。にぎり寿司、鯉のたたき、ラーメン、餃子、ホルモン料理など、高知の美味しい食べ物がすべて揃っているため、観光客も多い。観光シーズンや週末は旅行者や地元の人々で賑わっている。

2人掛けのイスが並んだテーブル席で生ビールを飲みながら食事をしていると、親子という二人の女性が相席を求めてきた。

ひろめ市場には、屋台やビアガーデンのように開放的で、知らない者同士が相席し、親しく話ができるという雰囲気がある。これがひろめ市場の大きな魅力である。



相席して会話を楽しんだ西森さん親子

(2010年4月4日記)